
ワッフル

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ワッフル

【Nコード】
N5106A

【作者名】
並盛りライス

【あらすじ】

僕は間違いなく甘党だ。それは誰にも言えない秘密ではあるけど

.....

京都駅構内にあるワッフル屋はいつも人気だった。

帰りのお土産や、下校時に食べるために並んでいる人も多い。

でも、その大半が女性で、男の僕は近づきにくかった。

もともと甘いものが好きで、高校に入ってからでもそれは変わらない。

友達という時は我慢するけど、一人の時はパフェでも食べれる。

帰り道に何度か店の前を通るけど勇気がなくていつも素通りしてしまう。

一度でいいからあのワッフルを食べてみたいと思った。

電車の中はいつも満員で、誰かの汗のツンとした匂いが鼻についた。

ドアのすぐ近くに立っていた僕に、隣りで談笑している女子高生の話が聞こえた。

「そんなにおいしいの？あそこのワッフル？」

「そつえばいつも行列だよね」

「この前も、ダイエット中なのに三個食べちゃった」

「あはは、ダメじゃん」

無関心を装っていたが、唾液線が刺激される。

絶対に食べてみたい。人がいなければだけど……

案の定、小さな列ができていて結構混んでいる。

ダメか…

渋々、通り過ぎようとする誰かに肩を叩かれた。

「山内くん…だよね？」

振り向くとそこには、同じクラスの国生さんがいた。

小柄でぽっちゃりとした国生さんは、いつもおとなしくて、自分から声をかけるタイプとは思えなかった。

それに、2、3度ぐらい話をしたぐらいであまり接点もなかった。

「国生さんってこっち方面だっけ？」

「う、うん。」

照れたように頷く。

「……ワッフル…食べる？」
遠慮がちに国生さんが言う。

じつとワッフル屋を見ていたのを見透かされたみたいで顔が真っ赤になった。

ワッフルは食べたい。けど、素直に言えない気がした。

なんと答えたらいいか分からずに吃っている…。

「甘いもの好きなんでしょ？山内くん…」

なぜ、家族と一部の人間しか知らない事実を知っているのだろう。

冷や汗でワッフルどころじゃなかった。

「この前、私が抹茶パフェを食べに行ったときに、これ以上の至福はないって顔で山内くんがチョコパフェを頬張ってたから…好きなのかなって…」

「いえ…そんなことは…。はい。甘いものはまあ好きっていうか…かなり好きです…」

言ってしまった。顔が熱い。今すぐ電車に乗って旅に出たい衝動にかられた。

「…………ワッフル食べる？」

「あっ…はい。」

そついう訳で今、僕は念願のワッフルを国生さんと一緒に食べてい

る。

国生さんはメーブルが好きらしいが、僕はチョコが一押しだと思っている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5106a/>

ワッフル

2010年12月12日03時07分発行